

新潟市會津八一記念館指定管理者 平成21年度事業報告

、事業の実施に関する業務

基本方針 = 會津八一の学芸の世界を多角的に取り上げて普及を図る。

(1) 展覧会事業

特別企画展「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたのせて」を翌年度に控え、その準備作業と並行させて、21年度の当館展示・イベントを展開した。

展示部門は會津八一と地元新潟との交流を前面に押し出す企画とした。まず、春の企画展では「街の中の會津八一 第2弾」として公共施設や学校、寺院などが持つ作品などを陳列し、地元密着の足跡を紹介した。夏の企画展では旧高田市に疎開していた写真家濱谷浩の没後10年を記念し、八一との深い人間交流を写真、作品、書簡などで紹介。秋は新潟大学創立60周年記念に合わせて特別展「會津八一と越の学び舎」で、総合大学設立に八一が具体的に参画し、新聞紙面でも「あるべき大学像」を提言し激励した姿を伝えた。冬の新収蔵品展では新潟日報の元社長西村二郎氏の遺族から寄託された軸、額、色紙など貴重な作品と、第3回写真コンテスト入賞・入選作品を並行展示した。

年間入館者総数は6,987人、前年度比1.75%減(前年度7,111人)

特別展 = 「會津八一と越の学び舎 ~新潟大学創立60周年記念~」

(平成21年9月19日~11月29日 開催日数 64日間)

新潟大学創立60周年にちなみ、會津八一と新潟大学をテーマに企画。八一は、昭和23年(1948)「夕刊ニイガタ」の紙上で3回にわたり随筆を発表している。創設されるべき理想の大学について要望を開陳し、大きな期待を寄せていた。

展覧会では、大学所蔵の美術品とともに、親交のあった大学関係者が所蔵する八一の墨蹟や書簡などを展示。さらに「はだかの大將」こと山下清のはり絵作品も陳列。これは、旧制医科大学出身の式場隆三郎が山下清の才能に注目し、清を「日本のゴッホ」として再び世間に知らしめたことによる。式場のプロデューサー的な役割も紹介した。

新潟大学旭町展示館でも「中田瑞穂・高野素十作品展」を同時開催、新潟大学ホームページへの広報、医学部同窓会へ図録案内のDM送付など、これまで希薄だった大学との連携をはかった。旧制高校出身者や新生の大学時に在学していた卒業生には直接教養を受けた恩師の資料が展示されて好評だったものの、在学生の反応は極めて良くなかった。

入館者数2,199人(前年度「會津八一が見たラストエンペラーの至宝」2,774人)

企画展「街の中の會津八一 第2弾」

(平成21年4月3日~6月28日 開催日数 75日間)

平成18年に好評を得た「街の中の會津八一」に引き続き、第2弾として市役所や新潟市内の小・中・高校、図書館などの公共施設、寺社、料亭、酒造に所蔵している會津八一の作品を中心に展示。市長室、校長室、館長室など格別な用件がなければ見ることも出来な

い作品群を一堂に紹介した。街の人々に畏怖されながらもハ一が地域に密着していたことがわかりよかったという感想が得られた。しかし借用先の学校へチラシを配布したものの、入館者数には結びつかなかった。

入館者数 2,097人(前年度「秋艸道人花鳥風月をうたう」2,065人)

企画展「没後10年 濱谷浩 會津ハ一博士を写す」

(7月3日~9月13日 開催日数63日間)

写真家・濱谷浩(1915~99)との130通を超える未公開の往復書簡、濱谷浩旧蔵作品などで二人の交流を紹介。また昭和22年(1947)新潟県内5都市で開催した濱谷の個展「越後の七人の芸術家」で撮影した芸術家たち(會津ハ一、安宅安五郎、小田嶽夫、小杉放庵、相馬御風、堀口大學、松岡讓)の関連作品も展示した。濱谷浩の没後10年を記念して開催したため、親類、関係者などの来館もあった。他館だと写真の展示は入館者数が伸びないというが、入館者は例年並み。

入館者数 1,777人(前年度「八朔郎俳句の世界」1,379人)

新収蔵品展(12月18日~4月2日 開催日数82日間)

平成19年(2007)から平成21年(2009)11月までに、新たに収蔵された作品資料を紹介。新潟日報社元社長・西村二郎氏旧蔵のハ一の書画、『會津ハ一傳』著者・吉池進旧蔵の手形、歌集『寒燈集』の口絵となった喜多武四郎画「會津ハ一肖像」、ハ一の養女紀伊子が代筆をした「吉池進宛書簡」などを展示した。その他、書簡など新寄贈、寄託作品を披露することが出来た。同時開催で、第3回秋艸道人賞写真コンテストの入賞入選作品も展示。悪天候が続き、交通機関が乱れ、除雪作業が大変だった。

入館者数 914人(前年度「はじめての會津ハ一」893人)

(2) イベント事業

企画展「街の中の會津ハ一」関連

・文芸講演会 演題「會津ハ一の『学規』と現代社会」

講師 轡田隆史氏(ジャーナリスト) 日時 5月1日 午後6時30分~8時

会場 クロスパルにいがた映像ホール 参加者 113人

企画展「没後10年 濱谷浩 會津ハ一博士を写す」関連

・文芸講演会 演題「父・堀口大學と写真家・濱谷浩」

講師 堀口すみれ子氏(詩人、エッセイスト) 日時 7月3日 午後6時~7時30分

会場 クロスパルにいがた映像ホール 参加者 85人

ハ一祭記念文芸講演会 演題「會津ハ一と小川晴暘 - 学問と写真との出会い - 」

講師 小川光三氏(写真家・飛鳥園社長) 日時 8月1日 午後2時~3時30分

会 場 新潟市美術館 講堂 参加者 87人

特別展「會津八一と越の学び舎 ～新潟大学創立 60 周年記念～」関連

- ・第 1 回文芸講演会 演題「伯父直木三十五と父植村清二」

講 師 植村鞆音氏（エッセイスト、植村清二氏の御子息）日時 10 月 3 日午後 2 時～
3 時 30 分 会 場 クロスパルにいがた映像ホール 参加者 86人

- ・第 2 回文芸講演会 演題「山下清と式場隆三郎」

講 師 神林恒道氏（會津八一記念館長） 日時 11 月 6 日 午後 2 時～3 時 30 分
会 場 クロスパルにいがた映像ホール 入場者 53人

「會津八一の歌を映す」第 3 回秋艸道人賞写真コンテスト

没後 50 年記念で当館が刊行した「會津八一 悠久の五十首」より選別した 7 首を題材に
歌の心象風景を反映した写真作品を全国公募した。

- ・公募期間 4 月下旬から 11 月 13 日
- ・審査会 12 月 6 日 ホテルオークラ会議室（浅井慎平審査委員長、大橋一章、小川光
三、和泉久子、神林恒道の審査委員 5 氏出席）
- ・審査結果 秋艸道人賞に燕市の赤塚一さん。奨励賞には県内 2 人、奈良県 1 人、埼玉県
1 人、福島県 1 人。入選は 18 人（県内 7、大阪 3、東京 2、奈良 2、埼玉、
神奈川、愛知、福岡各 1）
- ・報道発表 12 月 7 日（月）県政記者クラブ 浅井委員長、神林館長が発表し、新聞や
テレビで報道された。
- ・授賞式・作品講評会 平成 22 年 2 月 6 日（土）午前 10 時 30 分～12 時
クロスパルホールにいがた映像ホール 浅井慎平審査委員長、大橋一章、
和泉久子、神林恒道の審査委員 4 氏出席 一般参加者 50人
- ・祝賀会（参加者負担）
22 年 2 月 6 日 午後 1 時～3 時 ホテルオークラ 参加者数 43人

第 2 回會津八一賞「現代に生きる書とは」懸賞学術論文コンテスト

没後 50 年を記念し、會津八一の学芸を研究する若手研究者の育成をめざす趣旨。

- ・公募期間 2008 年 9 月 22 日～2009 年 12 月 3 日
- ・審査会 12 月 19 日 14 時～16 時 會津八一記念館会議室（大橋一章審査委員長、
野中浩俊氏、萱のり子氏、神林恒道氏の審査委員 4 氏が出席）
- ・審査結果 會津八一賞該当者なし、奨励賞に小川貴史氏（柏崎高校教諭）と石井健氏（東
京学芸大学助手）
- ・授賞式および祝賀会は上記写真コンテストの授賞者と同時に挙行。

神林館長連続講座（有料、財源確保と普及活動を兼ねて実施 = 2年度目）

イ) 前期「印象派とは何か」(4回) 会場はいずれもクロスパルにいがた

5月30日「印象派の始まり 近代絵画の革命」	受講者 72人
6月13日「色彩のリアリズム モネとスーラ」	70人
7月11日「ルノワールと印象派」	69人
8月8日「《後期》印象派とは何か セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン」	71人

ロ) 後期「抒情画の世界」 4回 会場はいずれもクロスパルにいがた

9月11日 「竹久夢二 - 宵待ち草のやるせなさ」	51人
10月9日 「高島華宵 - 華宵好みの君も行く」	42人
11月20日 「落谷紅児 - 花嫁御寮はなぜ泣くのだろう」	69人
1月22日 「中原淳一 - シャンソン歌手の誕生」	50人

(12月18日飛行便欠航で中止のため振り替え)

健康と教養を養う文学散歩「會津八一の散歩道」(中心街活性化策協力事業の2年度目)

- ・ 共催 = 中央区、新潟日報社、北方文化博物館分館
- ・ コース = 護国神社 - 會津八一記念館 西大畑公園 - 古町 - 西堀の瑞光寺(八一の菩提寺)
- ・ 解説 若月忠信氏(文芸評論家) 秋艸会役員、武藤事務長
- ・ 実施日 第1回 6月6日午前9時~正午 39人
- 第2回 6月27日 同 46人
- 第3回 7月25日 同 37人
- 第4回 9月19日 同 49人
- 第5回 10月17日 同 27人

(3) 学校・公民館等への出前講座

新潟日報カルチャースクール長岡教室「アートの楽しみ」 講師：神林恒道館長

イ) 「アートの楽しみ」会場：前期 = 新潟日報社長岡支社

- ・ 第1回 10月24日(土)「ミケランジェロとシスティナ礼拝堂の壁画」聴講者 34人
- ・ 第2回 11月21日(土)「実録フランダースの犬」 34人
- ・ 第3回 12月5日(土)「ゴッホと日本」 34人

ロ) 後期「日本画の世界」会場 = 新潟日報社長岡支社

- ・ 第4回 22年1月23日(土)「絵巻物の世界」 47人
- ・ 第5回 2月27日(土)「琳派とは何か」 47人
- ・ 第6回 3月27日(土)「浮世絵の国際化」 47人

新潟良寛会主催 講師：神林館長

4月29日(木)「良寛から會津八一へ」 グランドホテル 100人

新潟市主催 いがた市民大学 人間理解コース「美の饗宴」講師：神林館長

5月15日(金)「美とは何か - 東洋の美と西洋の美」	120人
加茂市公民館主催 講師：神林館長	
6月29日(月)「會津八一の美学」	48人
新潟日報社OB「大樹会」講師：神林館長	
7月31日(金)「にいがた映画夜咄」行形亭	38人
新潟日報社支局長会議 講師：神林館長	
10月29日(木)「新潟文化の記憶」によせて	55人
関屋地区公民館主催 講師：神林館長	
22年2月26日(月)「東洋の眼 西洋の眼」	81人
「書に親しむ」(会場：クロスパルにいがた)講師：野中浩俊・新潟大学名誉教授	
・第1回 5月9日(土)「書とその周辺」	受講者 99人
・第2回 6月6日(土)「鑑賞のマナー」	64人
・第3回 7月4日(土)「現代の書」	65人
・第4回 8月22日(土)「會津八一の書」	62人
「もめんの花束」主催 會津八一を語る 講師：喜嶋学芸員	
・第6回 6月7日(日)「街の中の會津八一」	10人
・第7回 9月27日(日)「會津八一と越の学び舎」	13人
いきいき男のセミナー 講師：湯浅学芸員	
7月13日(月)「會津八一の魅力」	60人
特別養護老人施設主催「穂波の会」講師：喜嶋学芸員 穂波ホール	
7月17日(金)「會津八一と新潟 - ふるさとを愛した文人 - 」	70人
市民文化サークル「カトレア会」 講師：湯浅学芸員	
9月5日(土)「會津八一の魅力」	11人

(4) 関連博物館との連携強化

仏像展の開催準備のため、奈良県立美術館、新潟市美術館などと連携を取りながら博物館の展示はどうあるべきか、館の環境はどうあるべきかを探った。

実施事業は以下の通り。

第2回写真コンテスト入賞入選作品 巡回展(胎内市)

会期：10月16日(金)～18日(日) 会場：胎内市産業文化会館 企画展示室

概要：胎内市會津八一記念事業実行員会、胎内市教育委員会、当館との3者共催

(5) その他の事業

イ) 学習講座

會津八一の歌を読む会(砂丘館 毎月第1土曜日 受講者20人)

講師：若月忠信氏(文芸評論家)

ロ)鑑定会

春の部 5月31日(日)総点数15点 認定数13点

秋の部 11月14日(土)総点数22点 認定数19点

ハ)旅行企画

「會津八一と高野山」4日間 4月16日(木)～19日

神林恒道館長と喜嶋学芸員が同行解説 参加者 30人

「會津八一と奈良の世界文化遺産」3日間 12月3日(水)～5日(土)

浅田隆奈良大学名誉教授が同行解説 参加者 27人

、施設の運営に関する業務

(1)平成21年度実績

観覧者数 6,987人(当初目標7,900人)

観覧料収入 2,365,440円(当初目標3,000,000円)

(2)再委託業務の計画

内 容	業 者 名
防犯・非常通報・火災異常等の業務	上信越セコム
総合清掃業務	新潟ビルサービス
冷暖房切替、点検整備	木村計装
消防用設備点検	新潟ニッタン
貯水槽の清掃・水質検査	新潟三協
庭の手入れ	新潟シルバー人材センター
エレベーター保守点検	三菱電機ビルテクノサービス
損害保険	三井住友海上火災保険(株)
建物定期検査	加賀田組
収蔵庫・展示室定期検査	中部資材
ホームページの運営	新潟日報事業社

(3)人材の育成

・上部団体の研修や事業に学芸員などが参加し、他館の学芸員並びに館のサポーターと交流し、得た知識・人脈を館の活動に反映できるようにすることが目的。

4月の旅行企画「會津八一と高野山」に徳永庶務担当

6月の北信越博物館協議会に湯浅学芸員が参加

1 1月の県博物館協議会の研修会に喜嶋学芸員が参加

3月の全国美術館会議研修会に湯浅学芸員が参加

以上のほか、特別展や企画展の準備のため、両学芸員は調査活動を各地に出張して学識を広めている。また、積極的に出前講座の講師をすることにより、解説力を高めた。

(4) 新聞、放送、ホームページ等の活用

学芸員が自らはブログに展覧会、イベント、記念館の周辺の季節の変化などを毎週1回紹介し、誘客活動を推進した。また、新潟日報文化面への執筆、新潟放送番組への出演など積極的に露出し普及活動を行った。

(5) 収蔵品の整理

ボランティアによる当館が所蔵する全書簡7,807通のうち未整理の1333通の整理が完了し、今回完了分すべてを平成22年2月8日に新潟市に寄贈した。他方書簡解読については、21年度は421通(20人分)を完了した。ちなみにスタートした20年度は書簡数33通(1人=東大寺の上司海雲師)だったので、解読率は全書簡の5.8%の進捗率である。

八一作品の画像データをデータベース化するため、業者の選定作業が進行中。

、その他

(1) 自己評価

入館者アンケートの継続実施 展示や企画のマンネリ化を防ぐため反応調査などをまとめ、21年度の展示に反映させてきたが、入館者数は微減した。

月間入館者数をグラフ化したことが、広報活動などの必要性を職員が常時意識するようになった。

館長講演、各種講演会に参加者数、年代などを把握し、講演会後は反応についての情報交換を欠かさず実施した。

(2) 寄贈、寄託

・収蔵品の充実を図るため、寄贈・寄託の申し入れには素早く対応してきた。

寄贈 会津八一書「茶熟香清」軸1点 会津きい子書簡吉池進宛5通

会津八一宛来信書簡1333通など 計1346点

寄託 会津八一筆「秋艸道人詠草」冊子1点